

## 【戸塚区】令和6年第3回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和6年9月6日 14時30分 ～ 16時30分
場 所	戸塚区総合庁舎9階特別会議室
出席者	<p>【座長】鈴木太郎議長</p> <p>【議員：5名】山浦英太議員、伏見幸枝議員、中島光徳議員 坂本勝司議員、大和田あきお議員</p> <p>【戸塚区：23名】近藤武区長、増田政博副区長、 内田沢子福祉保健センター長、緑川斉福祉保健センター担当部長、 白井一彦土木事務所長、河野宏紀戸塚消防署長（災害対策担当部長） ほか関係職員</p>
議 題	<p>令和5年度 個性ある区づくり推進費 戸塚区決算状況</p> <p>令和6年度 個性ある区づくり推進費 戸塚区執行状況</p> <p>令和7年度 個性ある区づくり推進費 戸塚区自主企画事業の考え方</p>
発言の 要 旨	<p>大和田議員：マンションの防災対策が遅れていると実感していて、いざ大規模災害があった時どうしていいか実際わからないという声も聞いている。住民自ら主体的に捉えていけるような冊子の作成を検討してもらえないか。</p> <p>藤咲総務課長：マンション防災については、まだまだ対応が必要と感じている。マンションの管理組合では役員交代により防災への取り組みが継続的にできないという課題もあるので、防災アドバイザーを派遣しながら、個々のマンション特有の課題について、伴走支援を行っていきたい。</p> <p>近藤区長：昨年度、戸塚区ではマンション防災に関する動画を作成し、啓発している。多くの方に見てもらえるように広報に努めていきたい。</p> <p>大和田議員：動画について解説資料があったら送ってほしい。また、保育所地域子育てパワーアップ事業では保育施設を対象としたマネジメント研修、虐待予防研修、防災研修と3つの研修を実施したとあるが、内容はど</p>

ういうものか。

関学校連携・こども担当課長：マネジメント研修については、今年度はコーチングを行った。虐待予防研修と防災研修についてはこれから実施するが、昨年度は、虐待予防研修は児童虐待の現状と施設長の役割の講義やグループワークを、防災研修は横浜市民防災センターで地震・火災体験を取り入れ、保育園での災害対応を意識付けるような内容を行った。

大和田議員：保育所子育て支援事業の市立保育所3園の巡回メールカー委託について、どのような内容でどう取り組んでいるのか。

関学校連携・こども担当課長：巡回メールカーは、保育園と区役所との間で、事務書類や園の関係書類を委託業者に運んでもらっていて、頻度としては、毎週火曜日と月初めの金曜日に実施している。

大和田議員：保育関係の予算は例年と同じぐらいの予算なのか。

関学校連携・こども担当課長：予算は昨年と同額である。

大和田議員：巡回メールカーの資料を送って欲しい。また、保育園の施設の老朽化という問題も出てきているようなので、今後助成や支援をしてほしい。

山浦議員：子どもと家庭を支える虐待防止環境づくり事業について、虐待防止キャンペーンのパネル展示や啓発物品の配付に関する資料を送ってほしい。

児童虐待は男性ばかりがするものではなく、女性も含めて虐待に関わっている。女性の話だけでなく男性の話もきちんと聞くようにしてほしい。くわえて、男性もハラスメントを受けていると市民意識調査で出ているので、児童虐待防止、ハラスメントの取り扱いについて戸塚区としてしっかり声をあげてほしい。また、男女共同参画センターは戸塚区にあるので、区民の声をまとめて政策経営局に声を上げてほしい。

鋪こども家庭支援課長：区役所では通告があった際、父親と母親双方の話を聞きながら対応している。合わせて、子どもの話も大事にし、傷つけないような配慮をしながら話を聞いている。こども家庭支援課では、妊娠期から子育て世帯に接することが多いので、両親教室等で男性の立場に立った内容を盛り込むことも考えている。

山浦議員：デジタル統括本部が進めているDX見える化プロジェクトの「窓口に来なくても済むようにする」というゴールに向けて、区役所とデジタル統括本部はコミュニケーションを取れているのか。最終的には区役所職員の人員が効率化され、それによって生み出された人員をどこに充てるのか、どの程度話し合いが進んでいるのか。また、職員一人一人のデジタル化に向けての意識を教えてほしい。

藤咲総務課長：現在、西区と港南区がデジタル区役所として窓口に来なくても手続きができるような取組を先行して実施しており、デジタル統括本部と情報共有をしている。職員配置の効率化については、将来的なDXの推進に伴う区役所のあり方を、市民局を中心に検討を進めていると聞いているので、その辺りの状況も確認していきたい。

山浦議員：区役所職員一人一人の意識が肝心。トップダウンでなく、皆さんの声をボトムアップで声を上げて行ってほしい。

近藤区長：横浜市中期計画でも、DXを契機とした区行政の更なる見直し・強化が謳われている。区役所は地域の総合行政機関であるとともに地域協働の総合支援拠点として市民に寄り添った支援ができるよう、持続可能な区役所のあり方・機能強化について検討が進められている。DXにより業務の効率化を進める一方、課題が多様化複雑化している福祉関係の相談などについては充実させていく必要があり、これらを総合的に考えていく。

鈴木議員：他区ではやっていないと思うが、予算・決算だけではなく、それぞれの課の職員数を、しっかりと出すようにした方がよい。

近藤区長：そのように進めてまいりたい。

伏見議員：「災害に強いまちとつか」に向けた防災・減災強化事業で実施した備蓄品リストの作成イベントにおいて、避難ナビアプリを紹介しているようだがアプリのダウンロードの説明も行ったのか。

藤咲総務課長：備蓄品リストについては、家族構成に応じてどのような備蓄品を備えておいた方がいいのかをメインで紹介した。合わせて、避難ナビについてもダウンロード方法も含めて紹介し、希望に応じてダウンロードのサポートも行った。

伏見議員：避難ナビアプリについて、避難対象地域の表記が「町名の一部」と記載されているため、避難対象地域が分かりにくいという声を聞いた。アプリの扱い方も含め、即時避難指示対象の方がいち早く避難すべき場所なのだとわかるような啓発をしてほしい。

藤咲総務課長：先日の台風10号でも、自宅近辺が即時避難指示対象区域なのかという問い合わせを多数いただいた。避難ナビの使い方も含めて、どのような方法で皆様にお伝えできるのかを検討していきたい。

伏見議員：子育て応援事業の育児支援講座について、昨年度の参加者の意見や、こうした方がよかったというような課題、それに対する工夫点があったのか。

舗こども家庭支援課長：1歳児講座は昨年度、試行的に実施した。月齢に合った関わり方がわからないという方が増えたため、具体的な遊び方や声かけなどの対応を伝える内容になっている。参加者に満足度のアンケートを取ったところ、ほぼ全員の方から参考になったと意見をいただいた。また、昨年度は講座の1ヶ月後にその後の様子を丁寧に伺ったが、子どもの表情がとても豊かになったなどの話もあり、非常に有効な講座であったと認識している。

今年度は区役所に来られない方のため、地域ケアプラザでの講座も開催し、きっかけづくりというところで取り組もうと思っている。

伏見議員：1か月後のお尋ねの後、もし不安なことが出てきたら相談ができるのか。

舗こども家庭支援課長：保健師にご両親から再度相談がある場合や、保健師から連絡するなど対応している。

伏見議員：とつか花できれいなまちづくり事業について、花さかクラブの方と一緒にGREEN×EXPO2027に向けた取り組みをしていく話はあるのか。

森土木事務所副所長：GREEN×EXPO2027の推進については現状、具体の取り組み等を行ってないが、花さかクラブの方と話をし、周知を進めていきたいと考えている。

伏見議員：まだ日程は先だが、花さかクラブの方もGREEN×EXPO2027の機運を高めてもらえると良いと思っている。そのようなきっかけを作っていただきたい。

近藤区長：GREEN×EXPO2027に向けての機運醸成は非常に大きな課題だと考えている。ご意見を踏まえ、花さかクラブの方にも働きかけ、一緒に活動していきたい。

中島議員：地域防災拠点に関して、いかに拠点に避難させないかが今の防災の大切なポイントだと思っているが、いかがか。

藤咲総務課長：在宅避難が基本となるため、昨年作成した「お家で避難」リーフレットを地域防災拠点訓練の参加者にも配布するなど、いざというときには拠点に避難するが基本は在宅避難ということをして周知をしているので、引き続きPRしていきたい。

中島議員：「お家で避難」リーフレットは非常にわかりやすくて良い。地域防災拠点に来ることが訓練の目的ではなく防災意識を高めることが重要という点で、的を射た訓練が少しずつ出来ていると思う。

先日の台風10号の際に開設された避難所に行ったが、硬い床の上にシートもなく横になっている避難者の姿を見た。行政から避難を呼び掛けているところもあるので、なにかしらの工夫をしていくべきではないかと思う。

藤咲総務課長：先日の避難所開設は長期間に及び、避難生活の厳しさを実感した。避難所の環境改善については検討していきたい。

中島議員：避難所運営に関わる職員は12時間交代の体制と聞いた。職員配置体制について横浜市としてルールが決まっているのか。

藤咲総務課長：職員体制に関しては1号配備や2号配備という形で、順を追って職員を当て込む仕組みになっている。交代の時間や従事する時間は市の統一ルールはなく区で決めている。

中島議員：職員の配慮も今後必要になってくると思う。防災・減災啓発の「まるごとまちごとハザードマップ」について、町なかでの洪水リスクの視覚化は非常にいいことだと思う。事前に地域の洪水リスクを知らせる取組は何かあるか。

藤咲総務課長：転入手続きの際に、ハザードマップをごみの出し方などの資料とともにお渡ししている。ただそれだけではなく、「まるごとまちごとハザードマップ」のように、日頃から防災意識を高める取組を引き続きやっていきたい。

中島議員：町のにぎわいに関わる戸塚駅前周辺の道路の混雑について、区政推進課が一生懸命やっているとは思いますが、駅前の整備に関して、駐停車禁止を行ったあとの駅前の状況がわかれば教えてほしい。

山内区政推進課長：駐停車している車によって対向車がぶつかりそうになるなどの元々の課題の解決に繋がっていると受け止めている。一方で区役所ロータリーの混雑が出てきている。利用者が混雑の時間帯を把握することでの分散も図れると思いつつも、元々はロータリーと合わせて第2バスセンターの利用も促していくということを基本としているため、改めて周知などをしっかりやっていきたいと思っている。

中島議員：駅前は戸塚区の顔になる場所で、ニーズは時代とともに変化していく。東戸塚駅前のタクシー乗り場は4レーンも必要なのかなど、様々な検討が必要だと思う。区政推進課長には伝えているが、区長も見

に行ってほしい。土木事務所も関わってくるとは思うが、ニーズ調査もしながら見直しをかけていただきたい。

近藤区長：タクシーに関してはアプリで呼び出しもできるようになってきている中で、乗り場のあり方も変わってきている。タクシー待機レーンの有効活用など、現状の利用状況を把握した上で、タクシー協会等と協議をしていきたい。

中島議員：タクシー協会の方々にも、見直しが必要ということ投げかけている。ぜひ区として見直しをかけて、快適な戸塚区の駅前を作っていってほしい。

坂本議員：戸塚駅西口の駐停車禁止について、警察からの検挙件数の報告はあるか。

山内区政推進課長：数字は把握していないので確認したい。

坂本議員：タクシーやバスの運転手から、停車が頻繁に行われているという話を聞いた。また、警察はそれを見ているが切符を切っていないとも聞いている。ぜひ警察との連携をお願いしたい。

区民意識調査について、対象者の選別、実施方法、内容について詳しく教えてほしい。

山内区政推進課長：対象者の選別については、外国人比率などを踏まえながら、住民基本台帳から無作為抽出をしている。調査のお願い自体は書面を送付しているが、前回からウェブ回答も可能としているので、書面を返信した方もいれば、ウェブ上で回答した方もいた。

坂本議員：対象者の分布は区内全域で均等になっているのか。

山内区政推進課長：区内全域の中から抽出されるような形になっている。

坂本議員：デジタルの集計方法も含めて、なるべく数値が上がっていくように対応してほしい。

防災について、在宅避難の呼びかけをもっと強くしていかないといけないと感じている。各家庭の備蓄などのPR方法も含めて、戸塚区独自の取組を進めてほしい。

藤咲総務課長：ご指摘のとおり、まだまだ在宅避難の周知は十分ではないと思っている。繰り返しになるが、「お家で避難」リーフレットの活用と合わせて、今年から始めている神奈中バスの広告など様々なツールを使いながら、何ができるのかを検討していきたい。

坂本議員：災害時の公園の取り扱いについて、避難所に指定されていないなど、まだ中途半端な状況だと感じる。かまど型のベンチを増やすなど、区役所の中でも議論して意見を吸い上げてほしい。

白井土木事務所長：かまど型ベンチも大切だが、まずは防火水槽が重要だと思っている。防火水槽が整備されていない地区も多くあるので、新しく公園改修などを行った場合は、その地区に防火水槽が足りているのか確認をし、足りてない場合は消防局等と調整をして、改修の中に入れ込むという調整を始めている。土木事務所単位で、公園の防災について同時に考えていくような形で進めていきたい。

坂本議員：災害時の公園のあり方について、区単位で特定の公園の使い方意見を市にあげることはできるのか。

白井土木事務所長：公園のあり方については整理がされてないようなところはある。順次整理していくものだと思うが、今後期待される機能として、仮設住宅の整備区域なども考えていかなければいけないと思うので、これから整備がされていくと思われる。そういった中で、戸塚区の事情も、危機管理室などに伝えていきたいと考えている。

坂本議員：先日の台風10号の後、地域の方から行政側のパトロールや、避難所開設に向けての準備が見えなかったと言われた。どのくらいパトロールをしたのか、町内会長との連携はどのようにされたのかお聞きしたい。

藤咲総務課長：当日は午前中に避難所が開設されたことをホームページとXで広報した。また、即時避難指示対象区域ではスピーカー付き広報車でアナウンスを行った。自治会町内会長、連合町内会長の皆様には、とつか緊急時情報伝達システムを用いてお知らせした。警報等が発令された際には区役所から電話やEメールで自動的に情報が伝わるような仕組みとなっており、登録いただいている方に対しては、当日のうちに速やかに情報をお流しした。

坂本議員：一部の町内会長の話では、そのあたりが見えなかったと言われた。デジタル的に投げるだけではなく、それぞれの避難所を普段使われている会長などにはダイレクトに、電話や無線なりで声を伝えて対応していただいた方がいいと感じるので、今後のあり方も含めて検討してほしい。

藤咲総務課長：避難所5か所の近隣の町内会長には、今後避難所開設にあたっての情報提供をしっかりと行っていきたい。

坂本議員：桜の関係で、クラウドファンディングの状況と戸塚区全体での桜の保存に関してはどのような状況か。

山内区政推進課長：現在の状況として、今年度中に地域の方と共同で保全、再生の計画を策定することになっている。柏尾川の桜並木を7つのエリアに分け、エリアごとに現況と課題を確認し、それに対してどのような対策が必要かなどを、検討会の中でお示しさせていただいている。次回は12月頃に3回目の検討予定しており、そこで再生・保全計画の素案をお示しできればと思っている。

クラウドファンディングに関しては、来年度からの実施に向け、主に本社が市外で事業所が戸塚区内にある企業様に、柏尾川の現状などお話をしている。地域のイベント等にも参加し、区内の企業様や区民の方にも、取組についてお知らせしている。具体的なことがお示しできるようになったら、先生方にもご報告させていただいた上で、公表していきたいと思っている。

戸塚区内の桜の名所については、阿久和川や俣野公園など、様々な桜の名所があるということを知っている。一旦は柏尾川にスポットを当

てて再生を進めていくが、区内には他にも多くの名所がある中で、区民の方からなぜ柏尾川だけなのかという誤解を与えないように、関係局とも連携しながら、区の花である桜の維持管理に努めてまいりたい。

坂本議員：本年度の自主企画事業費について、7月段階での執行状況としては順調なのか。

藤咲総務課長：今年度4ヶ月が経過し1年間のうちの3分の1という中では、50%の執行率で順調に進んでいる。5つの取組項目で若干ばらつきはあるが、年度末、年度後半に発注をかける事業が少なからずあるので、当初の事業計画どおりに執行できるよう管理していきたい。

坂本議員：数値がばらつくのは当然なので、目に見える形で順調なのかどうか掲載していただけるとありがたい。

大踏切デッキのベンチについて前回会議で話をさせてもらった。なかなか難しいとは思いますが、例えば暑い時期にはミストをつけたりなど、大踏切デッキをもっと歩いてもらえるような改革をしてほしい。

白井土木事務所長：施設管理の点から、賑わいの創造というのは難しい。記念事業として整備した大踏切デッキなので、区内のイベントを所管している部署と連携し、多くの方が通っていただけるようなものを引き続き考えていきたい。許可の関係については、区役所と連携してうまくいくように調整をしていきたいと思う。

坂本議員：八幡山しぜん公園の水場作りについて、もう戸塚区の方から意見を言うことはできないのか。区としても大切な公園整備だと思うので、もう1つ付加価値をつけてほしい。

山内区政推進課長：みどり環境局から、令和8年度に全体が竣工と聞いている。完成したところから順次開けていくということも聞いており厳しい現状があると思うが、こういう意見があるということは、当然共有させていただきたい。

坂本議員：戸塚駅周辺のバリアフリーについて、東口側の意識が弱いと

感じている。「まちみち」で整理されてはいるが、もう少しバリアフリーの考え方に突っ込んでほしい。バスセンターからの上下の移動を含めて、区の中で出たバリアフリーの検討をしていただけるとありがたい。

山内区政推進課長：現状としては一定の対応はしてきていると認識しているが、タクシー乗り場に関しては対応が残っており、地下鉄から来るにはエレベーターを乗り継がなければいけないという現状もある。バスの発着を東口から西口へ移転するなども合わせて、タクシー乗り場を手前に持ってくるという状況。まだ動線が十分ではないという考えもあるので、引き続き検討したい。

坂本議員：階段が多くかつ長いので、特に車椅子やベビーカーの方にとって動線が悪いことは昔から指摘されているので、バリアフリー的な視点をもっと入れていかないといけないという議論を加速化してほしい。

近藤区長：ハード面に関しては長期的な課題なので、それ以外の点で工夫できることに関しては取組を進めている。今回のご意見を踏まえ、すぐにはいかないが、区として何ができるのか検討していきたい。

坂本議員：タクシー乗り場の移転はいつ行われるのか。

山内区政推進課長：タクシー乗り場の移設については、一定の工事なども必要なもので、今年度中の移設となる。

伏見議員：モディに入るところのスロープに点字の誘導がない。白杖を持っている方はモディまで行くのに階段を降りるよりはスロープの方が安全だと思うので、点字の部分の確認をしてほしい。

森土木事務所副所長：事業者と現地を確認して、連携して設置に向けて検討していきたい。

鈴木議員：風水害時の避難所開設の流れについて、横浜市から指定された危険な崖地の周辺に住む世帯を即時避難指示対象とし、土砂災害警戒情報が発令されたらその方々に向け避難所が開設されるという認識でよ

いか。先日の台風 10 号の際も、そうした流れで避難所が開設したということか。

藤咲総務課長：おっしゃる通りで、基本的には即時避難指示対象区域に指定されている方に避難をしていただくことが避難指示の趣旨なので、それに向けて避難所を 5 か所開設したという流れになっている。

鈴木議員：対象者が明確に決まっているという話か。全ての避難所に対して、対象となるのは何世帯であるかは決まっているということか。

藤咲総務課長：今年 6 月現在で、箇所数で言うと 11 か所、世帯数は 143 世帯という形で明確に決まっている。

鈴木議員：即時避難指示対象区域のことを分かっているかどうかややはり不安に感じるどころ。分かっているはずでなく、あなたのところは土砂災害警戒情報が出たら避難していただく対象であると、度々伝えていくべきと思うがどうか。

藤咲総務課長：命に関わる話なので、毎年対象区域に対して資料をポスティングさせていただいている。また、とつか緊急時情報伝達システムでは、土砂災害警戒情報が発令されたら自動的にプッシュ型で、避難指示が発令されたという情報を流すこととなっており、システムへの登録も合わせて促させていただいている。引き続き対象の地域の方に周知をしていきたい。

鈴木議員：対象の地域でなく対象の世帯ではないか。そのことを町内会長や連合町内会長の皆様にも承知しておいてもらわないといけない。

藤咲総務課長：対象となる世帯にも、また町内会長の皆様にも、ここが対象の世帯ということをご理解いただくことがやはり重要だと思う。

鈴木議員：避難ナビアプリはあまり使い勝手が良くないと感じた。リアルタイムの情報は横浜市の防災情報ポータルが正確に分かりやすく伝えていると感じたので、システムの統合するよりも、使い分けをした方

がよい。避難ナビアプリで見られるものと防災情報ポータルで見られるもの、これらを整理して伝えていかないと、せっかくデジタル化してもどこを見ていいのかわからなくなってしまう。

藤咲総務課長：どこを見れば正確な情報が得られるのかというところは命に直結する話だと思うので、住民の方から見て使い勝手はどうかという視点で、改めて我々の方でもチェックをしていきたい。

鈴木議員：建築局が危険な崖地を指定し、即時避難指示対象区域の運用を始めた際にも、当時の区づくり推進市議員会議で同じ議論をしている。そもそも避難指示の対象がどこなのかという仕組みからきちんと整理して伝えてほしい。

戸塚駅西口の東急プラザデッキについて、使い方を考えた方がいいのではないかと思っている。現在GREEN×EXPO2027の幕を張っているが、考えを改めて、段差の間に段を入れて、情報のフェンスを外し、階段に変えてしまう方がいいのではないかと思う。デッドスペースにしてしまうのではなく、人々の行動を促す形で利用するというのにはありではないかと思うので、検討してもらいたい。

白井土木事務所長：フェンスは後から作ったものなので、取り外しはおそらく問題ない。間に段を入れられるかは構造的な検討が必要なので、考えさせていただきたい。鳩が集まらないように土木事務所の職員も注意しているが、使われ方があれば鳩も来なくなると思う。空いたところで何ができるのかは議論が必要だと思うので、区役所と連携しながら、賑わいの造成を拡大していけるように検討させていただきたい。

近藤区長：戸塚駅西口の東急プラザデッキは戸塚駅を利用する人が日々通る場所で現在の状況は非常にもったいないと思う。区政のPRの場所に、またにぎわいの場となるように有効活用について考えていきたい。

白井土木事務所長：今も花壇は置いているが、球根系の花が鳥に食べられてしまう。花だけでは鳥が追い払えないので、人がいつもいるような形にしていきたいという思いはある。